



二葉だより

<http://www.sumida.ed.jp/futabasho/>

平成29年5月31日

No. 3

墨田区立二葉小学校



「任すべきは任すもの」

副校長 井上 義郎

二葉小学校に異動して9校目の学校となります。どの学校も一つとして同じものではなく様々な特徴があります。きっと、学校を抱える地域やそこに通う子供たち、教職員、そして保護者の皆様によって、学校の個性や伝統が形成されているからだと思います。

9校も経験すると、中にはびっくりさせられるような経験もあります。カルチャーショックと言うのでしょうか、一つご紹介します。

A校は、小学校6年生の国公・私立中学校受験80%。都学力調査の平均正答率も90オーバーの学校です。保護者の学歴や社会的地位も高く、自宅にプール、海外に別荘・・・という子もクラスに4～5人はいたと思います。

私はA校に異動した年、5年生担任になりました。放課後は塾通いで遊べないので、中休みや昼休みは、男の子も女の子も校庭に出て、思いっきり遊びます。当時、学年ではやっていたのは「ドッジボール」。私も休み時間には校庭に出て、元気に遊ぶ子供たちを見ていました。遊びに熱中する子供たち。その内に「あっ、反則!」「ずるいぞ!!」と言い争う声。ドッジボールでおきまりのセンターラインオーバー。私は「さて、ここの子供たちは、どう解決するんだ」と暫し静観。

そのとき、ある子が「家に帰って、お母さんに決めてもらおう」と言ったのです。しかもそれに賛同する子供たち。

私は思わず「君たちそれでいいの?」と割って入りました。しかし、子供たちから返ってきた返事は、「ぼくたちいつもママたちに決めてもらっています。ママたちが決めたルールでドッジボールをしています」というもの。愕然としました。

進学校から一流大学を出て、日本の各分野を担っていく子供たちのはず・・・。

「この国の将来は大丈夫なのか?」それから私は授業の中で意識して「考える時間」「考えを共有する時間」を設けました。

「どう思う?」「なぜ?」が口癖に。二年後、お世話になった学校への感謝を自分たちで計画し、一週間「早朝掃除」をして卒業していきました。

さて今年、低・中・高の全ての遠足に引率する機会に恵まれました。現地では、低学年は縦割り班で、中・高学年ではグループで、楽しく元気に過ごしてきました。手をつないで年下の子を気遣う姿、何やら注意し合っている姿、男の子と女の子が相談している姿、自分たちで次の行動を確認している姿・・・子供が自分で考えたり、判断したり、思いやったりする姿をたくさん見て、二葉小学校のよさを再認識した一日でした。